

# SVA あろずかわら版 最終日特大号(4/7.8号)

7日、8日の花まつりを成功地終わり、SVAの活動も第一ステージ終了という  
ことになりました。このかわら版もとうとう今日が最終号です。けれど、私とまきほ  
いつものように---

## ◀かっどうきろくおし▶

御蔵小学校(4/7.8)

活動内容: 子供と遊ぶ、紙芝居を見る

今日で御蔵の公園での活動は撤退となる。最近子供の数がやたら少なくなったので、ちょっと  
うれしい気もある。初めの頃はどうなるかとかなり心配だったが、最後の方は仲良くなった。楽しか  
たので、明日やる最後のイベントは、ぜひみんなに参加してもらいたい。子供の感じが、その避難  
所によっても違うけど、御蔵の子は割合、ちゃんと家があるせいか、手とりがめつ、年も関係あると  
思うけど...。前の人達と子供の様子も知らないけど、今回のイベントは精一杯楽しんで  
やれたと思う。今日は20人くらい来て、1人でもわんやだ。たが、カメラを向けるとおんねん、1人だ。  
去年のあの公園で遊ぶのが最後とは信じられないような盛り上げの幕が終った。充実し  
た日々だ。たがうな気がする。

## ◀最終号ということば...▶

今回、かわら版の最終号、SVA活動の第一ステージ終了ということば、みんなに「かわら版に  
載せてほしいこと」を書いてもらいました。以下がみんなの言葉です。

- ・広報さん、活動報告不提出続出にもかわらず、SVAの活動内容がわかりやすく、しかも楽しめる  
ように工夫された紙面づくりは大変だ。たがと思います。広報に関わられたい方々、どうもありが  
たうございました。
- ・かわら版を見ることで、他のプロジェクトがどんな活動をしているのかよく分かりました。いつも提出が遅  
れて、ご迷惑をかけたことお詫言います。お疲れ様でした。
- ・秘密ボランティヤのボランティヤだ。たが、外の情報が知れてよかったです。いろいろ大変なことがある、た  
がと思います。ご苦労言います。
- ・いつもかわら版を読む時がたが、2ヶ月も過ぎたし、たがとありがとう。この時を忘れません。  
(こづいろう)

7日、8日に菅原商店街で行われた花祭りでは、多くの人が前とすれ、楽しませていかれたようです。最近に身をかわして「身の代り太陽」をみんなにうたいました。その日は神戸の人々の生きることに持てる力強さを感じさせてくれたが、そのうちに、何もかも残る焼けた灰が目にすると、何か痛々しいものが残りました。神戸の人々の震災の備はまだまだ消えることはないでしょう。けれどSVAにはみんなと比べて、これから頑張りが続けてゆくのです。

SVAでは今後、ボランティアの人数がずっと減り、治癒のボランティアもほとんどいなくなりそうです。プロジェクトもプロジェクト、仮設、南無梁のプロジェクト、ライラインもなくなりそうです。

これからは活動をしていかれる方、特に気を付けて頑張ってください。

そしてこれから活動される方々のために、本当にお疲れさまでした。

## ～らんしゅう後記～

今年で5月号のかわり版を2巻続いたことが本当にありがたうございました。うちの編集長は福利厚生係と兼任の長崎、お利のかわり版作りにはお入会されず、申しわけないか、と思っています。(言い訳か?) これまでかわり版作りをしてくださる方々、活動記録を提出してくださるメンバー、ご苦労をさせていただきます。

- これまでの活動を、ボランテア集大成のイベントが一番必要かな……
- かわり版のかわりばん。オムニバス版の作成、長年とボク特選でした。(KOJIRO)
- かわり版 用員として、ミヤエちゃんと川村君をSVAに取られた時は、人員不足で大変な状況で、他の日のかわり版を見て、「仮報」が誕生して本当に良かったと思えました。歴代の「かわり版」担当の方々に、お疲れさまでした。(くわやま かつ打)
- ここに来た、いろいろの仲間と会えて、本当に良かったです。この出会いを大切に大切にしていきたい。DESU。これからはお互いがんばりましょう。(平野 綾子)
- ぬくぽとイベントの活動で思い出した高田です。著経緯が長い経験をしたと思います。これからはお返し、それぞれの道でがんばりたいです。
- いつも求——としているのに、2週間と夕日くらいここにいたのですが、一度も活動報告は書きませんでした。だからかわり版もあまり読ませませんでした。でも長年続くと、全席のことや自分達のこともわかることができたので、感謝しています。ごちそうです。
- 自分のや、いる以外外見を知らない方がボランテア活動ですが、他の人達がどういふことをや、いて、全席としてどういふか知ることは長年の良いことでした。
- 「トリムに ミミガ……」かわり版、ごちそう様でした。(SVA 神奈川衛生短大 石場 久美子)
- お前ら 飯 食い可やだぞ! by 四代
- 一度、被災者の気持ちと、この神戸にいる間に、帰る前に命、心に焼きたての悔、いたす。
- かわり版、創刊号から最終号まで見届けることになりました。本当にありがとうございます。そしてここにいたのが長年お疲れです。もう一つ、悔、いたす。このためにやることを覚えておきたいです。がんばるのよ、これから長年、お疲れ。(創刊かわり版書き、海江 安佐子)

## ◀ おわりに… ▶

あれは命年に入、いきなり何もなしとある朝のことでした。突然の大地震が阪神一帯を襲い、業しか、長神戸の街は壊滅状態に陥ったのです。家、家族、財産……全てを失、長神戸の人々が瓦礫の下、おなかをすかせ震えました。あれからもう3ヶ月、われらがSVAは、みんな神戸の被災者の声とともに頑張っていました。

SVAが専長人王身にあ、未頃は、街の雰囲気は沈んでおり、ボランテア達の間にも笑いがなく(というか笑える環境ではないから)誰もがいつもビリビリしていたようです。余震が続いていたせいか、おんは「死ぬかもしれない」という意識が持つ、いたすということ、それが命は互いに住所を散ら、命、一緒に身を振、かりやするよう明るい雰囲気になりました。真光寺の日々、目の覚めるような忙しさですが、いつも笑いが解けません。それと同じように神戸の街も長いが明るさをとり戻し、活気がいたす。

SVAは被災者のニーズに合わせて様々なプロジェクトが生まれ、そして消えていきました。各プロジェクト、ボランテア、事務局、スタッフ……それぞれが、それぞれにしかわからない苦悩があったことでしょう。そして昨日今日をもち、この長い活動の第一ステージが終了ということになりました。